

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○基礎・基本の定着を図るために授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。 ○聞いて分かったことや考えたことを「相手意識」をもって伝える力を育てる。	○本時のめあてを板書するなど授業のユニバーサルデザイン化を図った。 ○子どもたちは、相手意識をもって活動するようになったが、話の内容が次の話題につながりにくく、全体の深まりまではいかなかった。そのため、教師は発問を工夫し、内容を関連させる話し合いができるような支援をした。	B
豊かな心	○幼保小や縦割り班活動等の異学年交流を継続して実施し、「相手」を意識した活動を充実させていくことで、一人ひとりの自尊心を高めていく。 ○道徳の授業を年一回公開するなど、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。	○幼保小の交流活動や職員の連携も深まり、一人ひとりの成長を多くの視点で支援できた。相手意識の高まりもあり、充実した活動になった。○縦割りの異学年交流では、自尊心を高めることができた。自主性、リーダー性を高めるため、さらに年間計画を充実させていく。○道徳教科化に向け研修や授業公開を行った。	B
健やかな体	○一校一実践として、年間2回開催する長縄集会に向けて各クラスで主体的に取り組む、体力の向上を図る。 ○給食後の歯磨きタイムを継続し、健康な体づくりの実践とともに意識を高める。	○年に2回、長縄週間を設定して目標に向かって各クラスで取り組み、体力の向上を図ることができた。チューンあそびタイムを習慣化するためには、来年度再度呼びかけていく必要がある。○後期には歯磨き週間を設定し、重点的に取り組んだ。歯磨きタイムを継続することで、特に低学年で歯磨きの習慣が定着してきた。	B
児童生徒指導	○年間を通して挨拶運動に取り組む。○小雀スタンダードに基づいた一貫した指導をする。 ○問題を未然に防ぐために児相・区役所・警察などの関係機関と連携をとる。 ○教職員間で児童についての情報交換を密に行う。○児童理解研修を行う。 ○相談室を有効に活用する。	○小雀スタンダードに基づき、1年から6年まで共通した児童指導を行った。 ○全教職員で、児童についての情報交換や児童理解研修を行い、問題の未然防止に努めている。 ○保護者や児童への適切な相談や支援のため他機関との連携を図った。	B
特別支援教育	○年度初めに児童の情報を全職員で共有し、一人ひとりに応じた支援を行っていく。 ○特別支援教育に関する研修を行ったり、視覚的情報を効果的に取り入れるなどの授業作りを工夫したりし、子どもたちが安心して学習に取り組めるようにする。 ○6年間のつながり意識した支援を行い、関連機関とも連携を図っていく。	○特別支援教育に関しての研修を行い、授業のユニバーサルデザイン化に努め、わかる授業のための支援をした。 ○6年間のつながり意識した計画をもとに、保護者や関連機関と連携を深め、一人ひとりに応じた支援を行った。子どもたちが安心して、意欲的に学習に向かえるように取り組んだ。	A
地域連携	○学校便り、ホームページの充実を図る。 ○行事、学習の中での支援として地域の方や保護者のサポートを生かす。	○学校だよりやホームページ・学校メールの充実により教育活動の様子を積極的に発信することができた。 ○行事や学習の中で地域の方や保護者の方のサポートを生かすことができた。	A
a18			
a11			
人材育成・組織運営	○メンター研修では、実践力の向上につながる研修を計画的に行う。 ○児童理解、授業力向上、危機管理等等、学校や児童の実情に合わせた研修を行う。また、OJTをはじめとした校内研修、メンター研修等に、関連する職員が効果的に関わり、組織全体で質を高めていくようにする。	○メンター研修では、年間計画にそって研修を行うことができた。2年・3年目研、リーダーシップ開発研修に関連付けて企画・運営を行った。○通常の校内研修に加え、OJT研修など組織全体で関わり、教職員の授業力向上にむけ意欲的な研修が行われた。今後、研修の企画・運営面での充実を図るようになりたい。	B
ブロック内相互評価後の気づき	○授業のユニバーサルデザイン化に取り組み、①各教科における分かりやすい板書②学習のめあてを明確にし、子どもに見通しをもたせること③具体物を使った操作等の工夫 が効果的にできている。学力向上に向けて、子どもの「分かるようになりたい」という意欲を生かし、丁寧な指導、スモールステップの積み重ねを継続していく必要がある。○経験の浅い職員が育っている。校内での協力体制を生かし、チームとして学校を運営できるようにする。○今年度、大正中ブロックで身に付けさせたい力の共通理解を図った。来年度も活用していきたい。		
学校関係者評価	○子どもたちが「学校大好き」で学校生活を楽しくしている様子が伝わってくる。どのクラスも学習に集中して取り組んでいる。○学校全体の掲示物、各教室の掲示物もよく整備されていて、学校がよく整理整頓されている。○子どもたちの思いやりの気持ちも育てている。歯磨きタイムの充実を図るとともに、○挨拶運動を通して自分が体験することにより、挨拶へ意識が高まっている。今後も体験を多く重ねることが大切と感じる。○学校だより、ホームページ、メール配信などが充実していて、学校の様子がよく発信されている。		

学校経営中期取組目標振り返り	○授業力向上に向けて校内での研修に取り組み、教師の指導力を伸ばしてきた。子どもたちが「学校大好き」と楽しく通える学校となってきている。さらに、学力向上に向けて継続して取り組んでいく必要がある。○学校だより、ホームページ等で学校の様子を発信することで、地域の皆様にもあたたかく支えていただいている。今後も継続して地域との連携を大切にし、50周年行事に向けての活動を計画していく。○小雀スタンダードの見直し、挨拶運動の継続、歯磨きタイムの充実等、今年度の振り返りを生かして、さらに充実を図る必要がある。
----------------	---

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○教室環境の整備とともに、基礎・基本の定着を図るために、授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。 ○聞いて分かったことや考えたことを「相手意識」をもって伝える力を育てる。また、話の内容が次の話題につながっていくように関連付けて話す力を育てる。	○全教室に小型のホワイトボードを配布し、時間割をかくようにした。黒板から、余分な刺激となる情報を減らし、板書を最大限に利用できるようにした。 ○子どもたちは、相手意識をもって発言し問題解決に臨んでいた。次の学習への課題意識は、まだ十分でないため、教師は内容を関連させるよう、授業を工夫した。	B
豊かな心	○幼保小や縦割り班活動等の異学年交流をさらに充実させ、「相手」を意識したり、自分から進んで関わったりすることで、一人ひとりの自尊心を高めていく。 ○道徳の授業を年一回公開し、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。 ○道徳の新内容項目を取り入れたカリキュラムを実践しながら、よりよいものへ改訂していく。	○幼保小の交流や縦割り班活動を通して「相手」の気持ちを大切に考えて関わろうとする姿が見られた。関わりの中で自尊感情を高めていく。○道徳の授業を年一回公開し、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。○道徳の新内容項目を取り入れたカリキュラムを実践しながら、よりよいものへ改訂していく。	B
健やかな体	○歯磨きタイムを継続し、歯磨きの習慣の定着を図る。 ○一校一実践として、週に一度のクラス遊びの時間を確保し、体力の向上を図る。また、運動委員会を中心に、長縄集会やマラソン週間を企画し、クラスで団結して目標達成のために取り組んだり、寒い時期にも積極的に体を動かしたりできるようにする。	○ブラッシング指導や歯みがきキャンペーンを通して、歯みがきの技術や意識を高めることができた。 ○長縄集会は、全校が熱心に取り組んでいた。マラソン週間でも独自のワークシートを使用し、走る意欲をもつことができた。	B
児童生徒指導	○小雀スタンダードを基に児童が安心して生活し、学習に取り組むことができるようにし、一貫性のある指導や支援ができるようにする。 ○問題の未然防止の研修や関係機関との連携により、適切な支援ができるようにする。 ○個に寄り添った児童理解のため、学年研や児童理解研修の機会を活用して職員間で情報を共有する。	○「小雀スタンダード」を基に児童が安心して学習や生活に取り組むことができる一貫した児童指導ができた。 ○児童理解のため「自閉症」YPAアセスメント」などの研修を行い個に寄り添った支援指導ができた。 ○保護者や児童への適切な相談や支援のために関係機関との連携を図った。	A
特別支援教育	○特別支援教育についての理解を深めるとともに児童の情報を職員間で共有し、適切な支援ができるようにする。 ○児童の困り感について理解を深め、授業のユニバーサルデザイン化を考え一人ひとりの教育的ニーズに応じた環境を整える。 ○関連機関と連携を図り、6年間を意識した支援を行う。	○特別支援教育の全体計画を改訂するとともに校内研修会で特別支援教育や児童支援への理解を深めた。 ○個別教育支援計画、個別指導計画を計画的に作成した。 ○支援を必要とする児童や保護者へ担任・担当者等が連携して対応した。	A
地域連携	○学校だよりやホームページ、学校評価アンケート、懇談会などを活用し、教育活動の様子や育てたい子ども像などを積極的に発信する。 ○地域や学習の方と連携し、児童が地域行事に進んで参加できるようにする。 ○学習ボランティアや清掃活動など、地域や保護者の方と理解と協力を得るためしつかり説明する。	○ホームページ・学校だより・学年だより・メールなどを通し教育方針や子どもたちの様子を伝え理解・協力を得ることができた。 ○「登下校の見守り」や「読書ボランティア」、地域行事など、地域や保護者の方と連携し協力を得ることができた。	A
いじめへの対応	○一人ひとりの児童の良さを積極的に見つけて認めたり、児童同士で認め合う機会をつくらせたりしていく。また、児童自身がマイナスと捉えている点について肯定的意味づけをしていくことで新たな自分の良さに気付かせ、自尊感情を高めていく。 ○教職員の意識を高め、児童の変化を見逃さずに問題の早期発見と迅速な対応に努める。	○「校内いじめ防止基本方針」や「人権」の研修により教職員の意識を高めた。 ○未然防止、早期発見、早期対応を意識し情報共有や対応についての相談を行い迅速に対応することができた。 ○生活や学習で認め合い伝え合う機会を作り自分の良さに気付かせ肯定感を高めることができた。	B
人材育成・組織運営	○メンター研修では、年間計画を立て、計画的に研修を行う。2年・3年次研は、授業研究を通して授業力を高めていく。短時間で効果的な研修になるよう、持ち方を工夫する。全職員がサポートに入るようにする。 ○児童理解、学力向上、危機管理等の校内研修を行い、基本を大切とした教師の授業力や学校運営力向上に努めた。安全の管理のためにも、ゆとりをもって授業準備や片付けができる時間の確保が必要	○メンター研修では、年間計画に沿って研修を行った。事前・事後研究会をもち、授業研究を通して、教師の授業力向上を図った。○児童理解、学力向上、危機管理等の校内研修を行い、基本を大切とした教師の授業力や学校運営力向上に努めた。安全の管理のためにも、ゆとりをもって授業準備や片付けができる時間の確保が必要	B
ブロック内相互評価後の気づき	○これまで取り組んできた、授業のユニバーサルデザイン化や丁寧な指導、スモールステップが定着し、子どもの学ぶ姿勢にその成果が着実に現われている。子どもの意識や意欲を更なる学力向上、特に基礎学力の向上に結びつけるため、各学級での取組を続けていくとともに、少人数指導や個別の指導、外国につながる子どもの指導の効果的な実施を図っていく。また、児童相談所等の関係諸機関との連携を一層進めている。○ブロックとしての身に付けさせたい力(『学びに向かう力と自分づくり』)がほぼまとまり、その伸長のための具体的方策を今後、検討・実施していく。		
学校関係者評価	○子どもたちの学ぶ様子が活発で、考えている内容も豊かである。1年生も、おちついてしっかりと学ぶことができている。教員の指導・支援も工夫して、細やかに行われている。一段とよい学校になってきた。○校内で子どもから進んで挨拶することができた。挨拶に関しても、子どもたちの意識が高まっている。今後も取組を続けてほしい。○廊下や教室など、校内環境の整備を今後も取り組んでほしい。○学校生活のきまり(『小雀小スタンダード』)が身につけていることが、子どもの言動に示されていた。学校としての指導が行われていることが感じられる。		

学校経営中期取組目標振り返り	○子どもの学校生活全般に対する意識の高まりが様々な形で表れ、重ねてきた取組の成果が示された。○学習面では、次の学習に対する意識の向上が課題となっており、学び続けていく「ねばり強さ」を育てていくべきと考える。○生活面では、相手の気持ちを考えた、より自発的・主体的行動をできるようにする。○健康面では、歯口清掃に対する継続的な取組が求められている。○上に記した子どもに対する働きかけをそれぞれの分野において進めるとともに、平成30年度以降2年間の取組計画が立てられた本校創立50周年記念事業の中でも子どもを伸ばすよう図っていく。
----------------	--

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○教室や特別教室の環境の整備とともに、児童が安全・安心して学習できるよう基礎・基本の定着を大切にし、より一層の授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。 ○児童が「相手意識」を大切にして伝え、考え、行動する力を育てる。また、学習や活動の内容が次の時間につながるよう、教師が各教科を関連付けた学習になるよう授業を工夫する。	○教室や特別教室の学習の環境整備を行った。また、授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。児童が安心して学習に取り組めるようになった。 ○各教科の学習内容を高めていくために、相手の意見を聴き、その意見をもとに話し合い活動を進めていくことで子どもたち同士で伝え考え行動する力が身につけてきた。	B
豊かな心	○縦割り班活動等の異学年交流を通して他者を大切にする心や協力する心を育てる。さらに「相手」を意識したり、自分から進んで関わったりすることで自尊心を高めていく。 ○道徳の授業を年一回公開し、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。また、道徳の新内容項目を取り入れたカリキュラムを実践しながら、よりよいものへ改訂していく。	○子どもたちが安心して居場所を保障し、幼稚園・保育園、中学校との連携や縦割り班活動を充実させる中で自尊感情を高め、互いの違いを認め合えるように支援した。○道徳の授業では、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。また、道徳の新内容項目を取り入れたカリキュラムを実践しながら、よりよいものへ改訂していく。	A
健やかな体	○歯みがきタイムや歯みがきキャンペーンを継続し、より良い歯みがき習慣の定着を図る。 ○一校一実践として、週に一度のクラス遊びの時間を確保し、体力の向上を図る。また、運動委員会を中心に、長縄集会やマラソン週間を企画し、クラスで団結して目標達成のために取り組んだり、寒い時期にも積極的に体を動かしたりできるようにする。	○昨年度に引き続き、学校保健委員会のテーマとして取り組み、はみがき検査ではAの児童が初めて7割となった。○一校一実践として、クラス遊びの時間を確保し、体力の向上を図った。○運動委員会が企画した縄跳びやマラソンの集会での目標達成のために子どもたちが日々意欲的に取り組めるように支援した。	A
児童生徒指導	○全職員で同じように指導していくことで安全・安心して学校生活を送り、好ましい人間関係を育てよう指導する。○問題の未然防止や早期発見・早期対応をするために情報交換・事実確認を行い組織的に指導にあたる。○児童保護者への適切な相談や支援のために関係機関との連携を図る。○自閉症理解研修やYPR研修などを行い、個に寄り添った適切な支援をする。	○「小雀スタンダード」を基に子どもたちが安心して生活を送り、好ましい人間関係を育てよう支援した。○問題の未然防止や早期発見・早期対応のため情報交換・事実確認を行い組織的に支援した。○児童・保護者の相談や支援のために関係機関との連携を図った。○YPRや縦割り活動を通して子どもの自己有用感を高めた。	A
特別支援教育	○特別支援教育についての理解を深めるとともに児童の情報を職員間で共有し、適切な支援ができるようにする。 ○関連機関と連携を図り、6年間を意識した支援を行う。 ○授業のユニバーサルデザイン化を推進し、子どもたちが安心して学習に取り組めるようにする。	○特別支援教育についての理解を深めるために講師を招いて校内研修を個人に寄り添った支援をした。 ○校内特別支援教育委員会を中心に児童の情報を職員で共有し適切な支援をした。 ○関連機関やSSWと連携を図り、児童の今後の成長を意識した見通しのある支援をした。	A
地域連携	○学校だよりやホームページ、学校評価アンケート、懇談会などを充実させ、日常的に情報を発信し児童の教育活動への理解を図る。 ○学校が地域の一人としての意識をもち地域行事に進んで参加するよう支援する。 ○図書ボランティアや学援隊など、地域や保護者の方の理解と協力に対して感謝の気持ちをもって接する。	○学校評議委員会、本校の教育活動の様子をよく踏まえた意見が評議員から出され、協議を深めることができた。本校の教育活動への理解が進んだものと考えられる。 ○図書ボランティアや学援隊の方に感謝の気持ちを伝える「ありがとうの会」で、子どもが感謝の気持ちをきちんと伝え、次年度につながる場とすることができた。	B
いじめへの対応	○一人ひとりの児童の良さを積極的に見つけて認め、児童同士で認め合う機会をつくらせたりしていく。また、児童自身を肯定的にとらえていくことで新たな自分の良さに気付かせ、自尊感情を高めていく。 ○教職員の意識を高め、児童の変化を見逃さずに問題の早期発見・事実把握等組織的対応に努める。	○学校いじめ防止対策委員会を開き問題の早期発見・事実把握・対応を組織的に再発防止につなげた。 ○教職員の意識を高めて授業や行事等で児童同士が認め合う機会をつくらせ自尊感情を高めた。	A
人材育成・組織運営	○メンター研修では、年間計画を立て、計画的に研修を行う。授業研究を通して授業力を高めていく。短時間で効果的な研修になるよう、事前研・事後研の在り方を見直す。○児童理解、学力向上、危機管理等の校内研修を行い、教職員の授業力をはじめとする資質・能力の向上にむけて研修をした。日常的なOJTがされている。誰もが安心して、働ける組織づくりを意識する。誰もが安心して、働ける組織づくりを意識する。誰もが安心して、働ける組織づくりを意識する。	○メンター研修では、年間計画に沿って研修を行い授業研究を通して授業力が高められた。○児童理解、学力向上、危機管理等の校内研修を行い、教職員の授業力をはじめとする資質・能力の向上にむけて研修をした。日常的なOJTがされている。誰もが安心して、働ける組織づくりを意識する。誰もが安心して、働ける組織づくりを意識する。誰もが安心して、働ける組織づくりを意識する。	B
ブロック内相互評価後の気づき	○ブロックで育む資質能力を踏まえて設定した、自校で育む資質能力を伸ばすための具体的方策が様々な形で実践されているが、その成果が現れている。○他校と比較してもおちついて学んでいる子どもに姿に、授業のユニバーサルデザイン化や丁寧な指導、スモールステップの定着ぶりが示されている。○少人数指導や個別の指導、外国につながる子どもの指導、児童相談所等の関係諸機関との連携を今後更に進めていくためには、ほぼ同じような環境にあるブロック内各校との密接な情報交換が不可欠である。		
学校関係者評価	○昨年と同様に1年生も、おちついてしっかりと学んでいる。子どもたちが活発に学び、豊かに考えているのも昨年同様である。教員の子ども一人ひとりに応じた丁寧な指導・支援に感心する。○挨拶に関しても、校内で子どもからの挨拶が自発的にできていて、より明るく学校になっている。今後も指導を続けてほしい。○教室や廊下の掲示物にも学年毎の統一性が感じられ、校内環境に対する教員の配慮が感じられる。○年を追って、よい学校となつた。平成31年度の創立50周年を大変よい形で迎えられるものと思われる。		

学校経営中期取組目標振り返り	○平成31年度を迎える本校創立50周年の取組の中において、学校生活全般に対する子どもの意識の高まりが自発的・主体的な様々な活動の形で示され、更なる高まりが今後期待できる。○次年度に取組を継続・発展する「漢字チャレンジ」(国語)等、学習に対する意識も学び続けていく「ねばり強さ」の向上のための取組に着手することができた。○歯口清掃に関する取組も継続して行われている。○以上、28年度からの3年間の中期取組を終え、着実に成果を上げることができた。今年度設定した新たな学校教育目標の下、本校教育活動の一層の充実を進めていく。
----------------	---